

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 教授
氏名 Name	林田理恵
専門分野 Academic Field	ロシア語学・ロシア語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①ロシア語ヴォイス研究 — 再帰動詞受動文を中心に — ②ロシア語教育ネットワーク確立に向けた基盤整備
<p>①ロシア語再帰動詞受動文について、動作性フォーカス、意志性指標の有無、モダリティー表現等の差異を背景に、非限界/限界という述語の動詞語彙の特性がどのように関与しているか、広範囲なデータ収集と共起制限等をめぐる詳細な分析を行った。次年度中に、ロシア語ヴォイス関係のこれまでの論をまとめた著作の刊行を計画している。</p> <p>②科研プロジェクト（「大学間、高等学校—大学間ロシア語教育ネットワークの確立」（基盤 B, 2011-2015 年））として</p> <p>1) 全国ロシア語教育機関教員が共同利用できる「ロシア語教育支援・就職情報サイト」コンテンツ開発の具体的作業を進め、サイト試験運用実施に至った。</p> <p>2) 2012-2013 年実施のロシア語学習者アンケート調査結果（全国 30 機関、1114 名対象）について、13 年度までに行った第 1 次、第 2 次分析を踏まえ、最終報告に向け、質問 4, 5 の回答結果について「学習環境と心理的欲求の関係性」「自律学習能力の観点から見たロシア語学習者の特性」に関する分析を進め、その結果を基に、11 月にロシア語全国学会にて各教育機関における教育体制・カリキュラムの現状と問題点に関する情報・意見交換のためのコロキウムを開催し、調査結果について報告、討論を行った。</p> <p>3) 上記アンケート調査結果分析に関し、「日本のロシア語学習者の動機づけについて—全国 6 言語アンケート調査結果から—」（宮本友介・横井幸子・林田理恵共著、『ロシア語教育研究』第 5 号、2014 年 9 月）、「日本のロシア語学習者の動機づけについて—期待・価値理論に基づく考察—」（宮本友介・横井幸子・林田理恵共著、『ロシア語教育研究』第 5 号、2014 年 9 月）、「全国 6 言語アンケート調査結果（第 2 回中間報告）とロシア語教育の方向性」（林田理恵・金子百合子共著、『新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で利用できる共通言語教育枠の総合研究』2011-2014 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書、2014 年 12 月）「ロシア語学習者の学習動機づけ」（林田理恵著、同上報告書所収）を執筆・発表した。</p> <p>4) 東北・北海道地域、高等学校ロシア語課程の現地調査・視察を行い、「ロシア語教育実情調査— 将来的展望と中等・高等教育機関連携の可能性」（『複言語・多言語教育研究』№ 2, JACTFL(日本外国語教育推進機構), 2015 年 3 月）を執筆・発表。</p>	